

## 社会調査の基礎

問題 84 調査方法と調査票への記入の仕方に関する次の記述のうち、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 郵送調査、留置調査、個別面接調査、電話調査の中で、実対象数を同じとすれば、調査の実施に当たっての経費と労力が最もかかるのは、郵送調査である。
- 2 電話調査は、調査員が質問をしながら調査票に書き取る自計式調査である。
- 3 「全国世論調査の現況(平成26年版)」(内閣府)によると、公的機関、大学、メディア、企業が実施した調査の中で最も多かったのは、留置法である。
- 4 訪問面接調査法では、記入要領を理解した調査員が、調査対象者との面接で聞き取った内容を調査票に記入する。
- 5 調査票への記入の仕方として自計式は、他計式と比べて、質問の意味を正しく理解し、回答を正しく記入しやすい。

問題 85 4種類の尺度水準、すなわち名義尺度、順序尺度、間隔尺度、比例尺度に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 大小関係を示すことができるのは、名義尺度と比例尺度の2つだけである。
- 2 意味のある算術平均を算出できるのは、間隔尺度と比例尺度の2つだけである。
- 3 中央値を算出できるのは、順序尺度と間隔尺度の2つだけである。
- 4 最頻値を算出できるのは、順序尺度、間隔尺度、比例尺度の3つだけである。
- 5 カテゴリーごとの分類ができるのは、順序尺度、間隔尺度、比例尺度の3つだけである。

問題 86 質問紙の作成方法に関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 質問文の中で専門用語を用いる場合、まず、その用語の認識について確認する<sup>ろ</sup>濾<sup>か</sup>過質問を行った上で、その用語を知っている者のみに尋ねることが望ましい。
- 2 質問項目の順番が後になるほど、回答者の集中力が低下するため、複雑な質問から順に配置することが望ましい。
- 3 質問紙における回答の形式は、自由回答法を主とし、必要に応じて選択技法を用いることが望ましい。
- 4 回答の形式として選択技法を用いる場合、想定される選択肢を網羅するため、選択肢の数が多きほど望ましい。
- 5 キャリーオーバー効果を避けるため、質問の配置は、内容に関係なくランダムな順番で行うことが望ましい。

問題 87 ピアソンの積率相関係数に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 値は0から1の範囲の間で変動する。
- 2 2つの変数の因果関係を表すものである。
- 3 年齢と所得の相関係数は、所得が円単位でもドル単位でも同じ値になる。
- 4 2つの変数の間に完全な相関がある場合、散布図は円形になる。
- 5 2つの順序変数の関連の強さを測る指標である。

問題 88 グループインタビューに関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 対象者の選定は、有意標本抽出によって行われることが多い。
- 2 参加者間の相互作用が起らないように、司会者が気をつける。
- 3 記録係は、参加者の非言語的反応について記録をする必要はない。
- 4 一度に参加する人数は、多いほど良い。
- 5 質問は、参加者が明確に回答できるように選択式を基本とする。

問題 89 アクションリサーチに関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 研究対象について、非参与的に観察し、研究を行うものである。
- 2 質的調査が用いられ、質問紙調査のような量的調査は用いられない。
- 3 目的は、科学的な因果関係の検証である。
- 4 計画、実施、事実発見の循環が、基本プロセスとして提唱されている。
- 5 調査を通じて得られた知見を実践活動と結び付けてはならない。

問題 90 社会調査におけるコンピューターやインターネットの活用に関する次の記述のうち、適切なものを2つ選びなさい。

- 1 インターネット調査は、調査対象がインターネット利用者に限定されるため、目標母集団に照らして、調査漏れが生じやすい。
- 2 発言の当事者を特定できないインターネット上の掲示板の書き込みは、社会調査の分析対象として活用することができない。
- 3 国勢調査では、インターネットで回答することができない。
- 4 調査票調査の自由回答や介護記録の記述など大量の文字データの分析には、コンピューターを活用することができない。
- 5 国の統計データについては、一つに集約されたポータルサイトが整備されている。